

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 13 日現在

機関番号：33906

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25370737

研究課題名(和文) 韓国の「多文化主義」政策と言語政策・外国語教育の関連・展望の研究

研究課題名(英文) A Study of "Multiculturalism" Policies in South Korea and their Relationship to Language Policies and their Future Prospects

研究代表者

樋口 謙一郎 (Higuchi, Kenichiro)

椋山女学園大学・文化情報学部・准教授

研究者番号：40386561

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、現代韓国における外国人住民の増加に対応して制定・施行されている一連の外国人政策(「多文化主義」政策)と、言語政策との関係・課題・展望を分析するものである。その際、言語政策過程の歴史的分析(法律・制度の理念と成立経緯の整理)、在韓外国人の数・構成の変遷・実態と「多文化主義」政策の整合性の検討、在韓外国人の社会編成・階層移動に関する言語政策の役割・諸条件・展望の考察を中心に研究を進め、今日の韓国で立案・推進されている「多文化主義」政策の背景にある歴史的・社会構造的要因、同政策と言語政策動向の関連および問題点・課題を明らかにすることに努めた。

研究成果の概要(英文)：This study examines the relationship between South Korea's "multiculturalism" policies, and the country's language policies and their future prospects. The study proceeds from an historical analysis of South Korea's language policies, summarizing the related legal framework, the thinking behind the system for implementing the policies, and how they were implemented. The study then considers the consistency of South Korea's "multiculturalism" policies given the current situation of non-Korean residents. The study finally focuses on the role of the country's language policy, its characteristics, and future prospects as these relate to the non-Korean community's composition and class mobility.

研究分野：言語政策

キーワード：韓国 多文化主義 言語政策

1. 研究開始当初の背景

2012年8月末の統計において、韓国在住の外国人住民(以下、在韓外国人)の数は約143.8万人であった。外国人登録者の数は、約5万人だった1990年代初頭に比べると、約20年で飛躍的に増加したといえる。その構成も、かつては在韓華人が中心であったが、今日では外国人労働者と国際結婚による移民が大きく増加している。現在の在韓外国人のうち、約半数を中国人が占めており、その多くが朝鮮族である。そのほかに東南アジア諸国の出身者も多い。法政策面では、永住外国人の地方参政権を認める改正公職選挙法(2005年)、外国人の韓国社会への統合を目指す「在韓外国人処遇基本法」(2007年)、国際結婚家庭(多文化家庭)の生活の質向上を図る「多文化家族支援法」(2008年)などが制定された。さらに改正国籍法(2010年)により、条件付で在韓外国人に重国籍が認められるようになった。

韓国では、これらの外国人政策が「多文化主義」と位置づけられ、社会の「多文化」化に向けた動きが急速に進んでいるが、言語政策の見地から考えたとき、いくつかの重要な論点がある。

第1に、今後は、人種・民族間の所得格差や不平等の拡大、2世や3世のアイデンティティの問題、社会的摩擦の増大などの懸念も指摘される。社会統合に向けてかような問題を克服する上で、特に多言語社会を形成していく上で、言語政策いかなる役割を果たすかという問題がある。

第2に、韓国の従来の言語政策との整合性である。研究代表者が過去の論稿で指摘したように、日本統治からの解放後の韓国の言語政策は、言語ナショナリズムを基調とするものであった。韓国で近年、政策的に注力されている英語教育も、韓国の「世界化」戦略の一部をなすとされるが、この「世界化」もまた、本質的にグローバリズムとナショナリズムの両面の性格を持つものであることが、政治学や教育学の論者により指摘されている。一方、韓国の昨今の「多文化主義」政策の推進は、韓国のナショナリズムのありかたに根本的な見直しを迫るものであり、従来の言語政策も、言語観のレベルから見直されたり、多言語社会的な現実に影響を受けたりする可能性が高い。

第3に、日本への示唆の可能性である。「多文化主義」といっても、移民が国家形成の背景米国、カナダ、オーストラリアなどや、この数十年間で労働者や難民を受け入れ、社会統合政策に試行錯誤している欧州各国などでは性格が異なるが、世界的に見ると、日本と韓国は、1980年代以降の外国人労働者の流入、伝統的な家長長制など、共通する基盤、背景を有しており、韓国の外国人政策と、それを社会的に実体化していく上で重要となる言語政策の経験は、日本社会の将来を展望する上で、比較・参照すべき事例となると考

えられる。

以上の認識をもとに、本研究では、韓国における外国人政策(「多文化主義」政策)の言語政策への影響・関連について、政策形成過程の検証によって詳らかにするとともに、韓国における言語政策の今後の課題・展望を見定めることを目指す、とした。

2. 研究の目的

本研究では、現代韓国における外国人政策(「多文化主義」政策)と言語政策、外国語教育の関連と課題および展望を考察する。その際、言語政策過程の歴史的分析(法律・制度の理念と成立経緯の整理)、在韓外国人の数・構成の変遷・実態と「多文化主義」政策の整合性の検討、在韓外国人の社会編成・階層移動に関連する言語政策の役割・諸条件・展望の考察を中心に研究を進め、今日の韓国で立案・推進されている「多文化主義」政策の背景にある歴史的・社会構造的要因、同政策と言語政策動向の関連および問題点・課題を明らかにしていく。

以上の点を明らかにするために、既往の研究文献のほか、各種の政策関連の一次資料、各種メディアの言論動向などを検証し、必要に応じて行政および教育関係者へのヒアリング調査を行う。これについては、各方面の研究協力を得て、記述文書だけでは読み取れない政策関係者の意志を可能な限り詳らかにする。それによって「多文化主義」政策を可能ならしめ、実体化していく上で言語政策の役割に注目し、その歴史的、社会経済的、文化的背景を含む包括的な検討を行い、関連分野の学術的、実務的な知見水準の向上を期する。

韓国の「多文化主義」政策と言語政策(外国語教育政策を含む)の関連について、十分な質・量の現地資料を利用し、法政策や歴史的経緯を踏まえて総合的な考察を試みた研究は、韓国においても十分に行われていない。本研究は、言語政策の動向が今後の韓国の社会統合の鍵を握るという認識に立って、研究動向の空白を埋め、この分野の学術的、実務的な知的水準を高めるとともに、その研究成果を日本の事情を考慮する上での参考とすることを旨とするものである。

3. 研究の方法

本研究は、外国語教育・言語政策を中心としながらも、それにとどまらず、教育政策、法制度、政策過程、国際関係などを踏まえた学際的研究となる。資料は、日本・韓国のみならず、昨今、送り出し国として、韓国への移民が増加している中国においても収集する。この際、在米・在韓・在中の知人研究者との情報交換を十分に行って密度の濃い研究を行うよう努める。また、研究の公表と、それによる問題提起と批判吸収を重視し、国

内外に発表の機会を求めていくこととした。
当初の計画としては、研究期間中、次の3点を基軸として研究を進める。

(1) 韓国における言語政策形成過程の歴史的分析

本研究の基礎となる作業として、まず解放後韓国の言語政策の形成過程について、在韓外国人との関連を含め歴史的分析を行う。応募者のこれまでの研究で、韓国の言語政策や外国語教育の通史については、資料収集、研究発表を行ってきたので、本研究においては、それらがいかなる立法・行政過程を経て形成されてきているのかという点を中心に検討する。また、韓国の言語政策について、近年の状況や、近い将来の展望を踏まえた先行研究は少ないため、本研究では、可能な限り最新の状況を踏まえて、既往の研究蓄積を更新していく。

(2) 在韓外国人の数・構成の変遷・実態と「多文化主義」政策の整合性の検討

在韓外国人が数・構成の変容、韓国における外国人政策(多文化政策)・事業の内容、規模、性格について整理し、在韓外国人の実態と一連の「多文化主義」政策の関係を検討し、言語政策が果たしうる当面の役割を考察する(特に緊急的、短期的な課題の分析)。この際、受入国(韓国)の外国人政策に対し、送出国の現状や政策がいかなる関係にあるのかという点も踏まえて考察する。記述資料では見通し難い点についてはヒアリング、インタビュー調査を行い、質的分析を進めていく。

(3) 在韓外国人の社会編成・階層移動に関連する言語政策の役割・諸条件・展望の考察
上記(1)(2)の研究をまとめるとともに、在韓外国人のライフコースや社会編成・社会階層移動と言語政策の関連について、日本や欧米の移民政策も参考にしながら、中・長期的視点に立って検討を進めていく。在韓外国人に対しては一定の社会的期待があるという側面(低賃金の労働者や国際結婚の相手として)も踏まえ、一連の「多文化主義」政策が韓国の社会・経済的戦略の関連を明らかにしていく。

この上で、実際に研究を進めていくなかで、韓国の状況を台湾や香港などの状況との比較のなかで検討していくこと、海外居住コリアンに関する調査を含めることの重要性を認識するに至り、それらの調査研究を随時盛り込んだ。

4. 研究成果

2013年度は、韓国の「多文化主義」政策および外国人住民に対する教育事情に関する先行研究の調査を行った。この際、言語政策、

外国語教育、社会言語学を中心としつつ、法制度、政策過程、国際関係、言語政策などを踏まえた調査とすることとした。日本・韓国・中国の資料の収集、研究者へのヒアリングを行い、最新の移民研究とその方法論、および調査地の情報を収集・集約した。次に、文献調査・ヒアリングでは把握できない事柄について、韓国における現地調査を行い、調査項目を整理した。初年度は特に「多文化主義」政策の形成過程に関する現地資料の収集と、行政・政策関係者への聞き取り調査などを行った。また、本研究は特に言語政策の形成過程に着目するものであることから、コストベネフィット、言語観変遷、キャリア実績、教育の産業化、国家的人材戦略との関連性などの項目を検討した。その上で、この段階で得られた知見を整理し、向後の研究における調査枠組みや成果の想定について国内外の学会・国際会議などで報告した。

2014年度は、前年度に引き続き、文献研究、専門家へのヒアリングを行った。また、現地調査を韓国と中国で行った。韓国においては、前年度に引き続き「多文化主義」政策の形成過程に関する調査を行うとともに、外国人集住地域に対する訪問調査に力を注いだ。主な送り出し国の一つである中国においては、朝鮮族を含む中国人に関連して韓国・朝鮮語を含む外国語教育環境・意識についての現地視察などを行った。また、この段階で得られた知見を整理し、本研究の中間成果や展望について国内外の学会・国際会議などで報告した。

2015年度は、研究の総括を目指して、特に韓国の一連の「多文化主義」政策言語政策の関連について、緊急的・短期的な課題と、中・長期的な課題の整理および整合性の検討を行った。韓国などでの訪問調査を通じて、前年度までの調査の補足を行った。また、国内外の学会・国際会議で研究成果を公表するとともに、その結果を学会などで報告し、フィードバックを受けた。さらに、本研究を、研究代表者の従来の歴史的研究の文脈に位置付ける試みも行い、その成果を発表した。

2016年度は、前年までの研究の成果を内外で発表するとともに、今後の研究発展に向けた補足調査や予備的研究などを行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計6件)

Ken ' ichiro Higuchi, William M. Petruschak, An Overview of Overseas English Study in Asian Countries and Approaches to Related Research 椋山女学院大学文化情報学部紀要、査読無、第12巻、2013、71-81

Ken ' ichiro Higuchi, Multiculturalism

Policies and Language Policies in South Korea: Approaches and Prospects, 椋山女学園大学文化情報学部紀要、査読無、第 13 巻、2014、123-129

Ken'ichiro Higuchi, A Comparative Study of Multicultural Education Policies in Japan and South Korea, SPUCON 2014: Research and Innovations for Sustainable Development, 査読有、2014、19-27

Ken'ichiro Higuchi, Language Rights of Minority Groups in South Korea, 椋山女学園大学文化情報学部紀要、査読無、第 15 巻、2016、125-131

樋口謙一郎、金起林の「新しいことば」論に関する一考察、日本言語文化、査読有、35、2016、181-192

樋口謙一郎、国語基本法と「標準語」問題：韓国の憲法訴願をめぐる、椋山女学園大学文化情報学部紀要、査読無、第 16 巻、2017、117-122

〔学会発表〕(計 11 件)

Higuchi Kenichiro and Kwong Yan Kit, "Views of Language of Korean People Living in Hong Kong and Macau Background of the Formation of Their Views and the Relationships between Their Motives of Migration and Language Use", 2013 Hong Kong International Conference on Education, Psychology and Society (Hong Kong Regal Airport Hotel) December 21, 2013

樋口謙一郎「兪鎮午の憲法案における日本国憲法の参考状況について」第 88 回韓国日本学会(於韓国・中央大学校) 2014 年 2 月 8 日

Higuchi Ken'ichiro and Kwong Yan Kit, "Language Use and Identity of Immigrants and Expatriates in East Asian Countries", 2014 International Conference on Applied Linguistics & Language Teaching (ALLT) at National Taiwan University of Science & Technology (NTUST), Taipei, Taiwan, Apr 17, 2014.

江仁傑、樋口謙一郎「香港の高等教育機関における韓国語教育と学習者のニーズ」、北東アジア言語教育学会(於新潟県立大学) 2014 年 5 月 24 日

樋口謙一郎「韓国の多文化主義政策と言語問題」、日本言語政策学会第 16 回大会(於千葉大学) 2014 年 6 月 8 日

樋口謙一郎、加藤三保子、仲潔「パネル発表・日本における「言語権教育」の可能性 手話言語、法令・外国語教育、言語観の研究の視点から」、第 10 回国際日本語教育・日本研究シンポジウム(於香港大学港大保良社区書院) 2014 年 11 月 16 日

Higuchi Ken'ichiro "A Comparative Study of Multicultural Education Policies in Japan and South Korea", Sripatum University Conference 2014(SPUCON2014), Dec 16, 2014.

Higuchi Ken'ichiro "The Rise of English" in South Korea under the U.S. Occupation', International Conference - Korea's challenges ahead: The Korean Peninsula issues in the world, Conference Venue: CASA ACADEMIE, Bucharest, Romania, September 4, 2016.

Higuchi Ken'ichiro 'Two Forms of Multilingualism of South Korea' The 9th International Conference on Language, Individual & Society 2015, Conference Venue: Hotel Royal Castle, Elenite, Bulgaria, September 8, 2016

樋口謙一郎「韓国の『標準語』問題から日本語教育を考える：国語基本法に対する違憲審査の分析をもとに」AIDLG-AJE 2016, Venice, Conference Venue: Università Ca' Foscari Venezia, July 8, 2016.

Higuchi Ken'ichiro 'The External Characteristics and Usage of English Language Textbooks in South Korea during the US Occupation' International Conference of Humanities 2016, Conference Venue: Universiti Sains Malaysia, December 22, 2016

〔図書〕(計 2 件)

樋口謙一郎編著、大学教育出版、北東アジアのことばと人々、2013 年、230

第 9 回国際日本語教育・日本研究シンポジウム大会論文集編集委員会編、ココ出版、日本語教育と日本研究における双方向性アプローチの実践と可能性、2014、994(担当頁：江仁傑・樋口謙一郎 737-748)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：

番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

樋口 謙一郎 (HIGUCHI, Ken' ichiro)
椋山女学園大学・文化情報学部・准教授
研究者番号： 40386561

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()